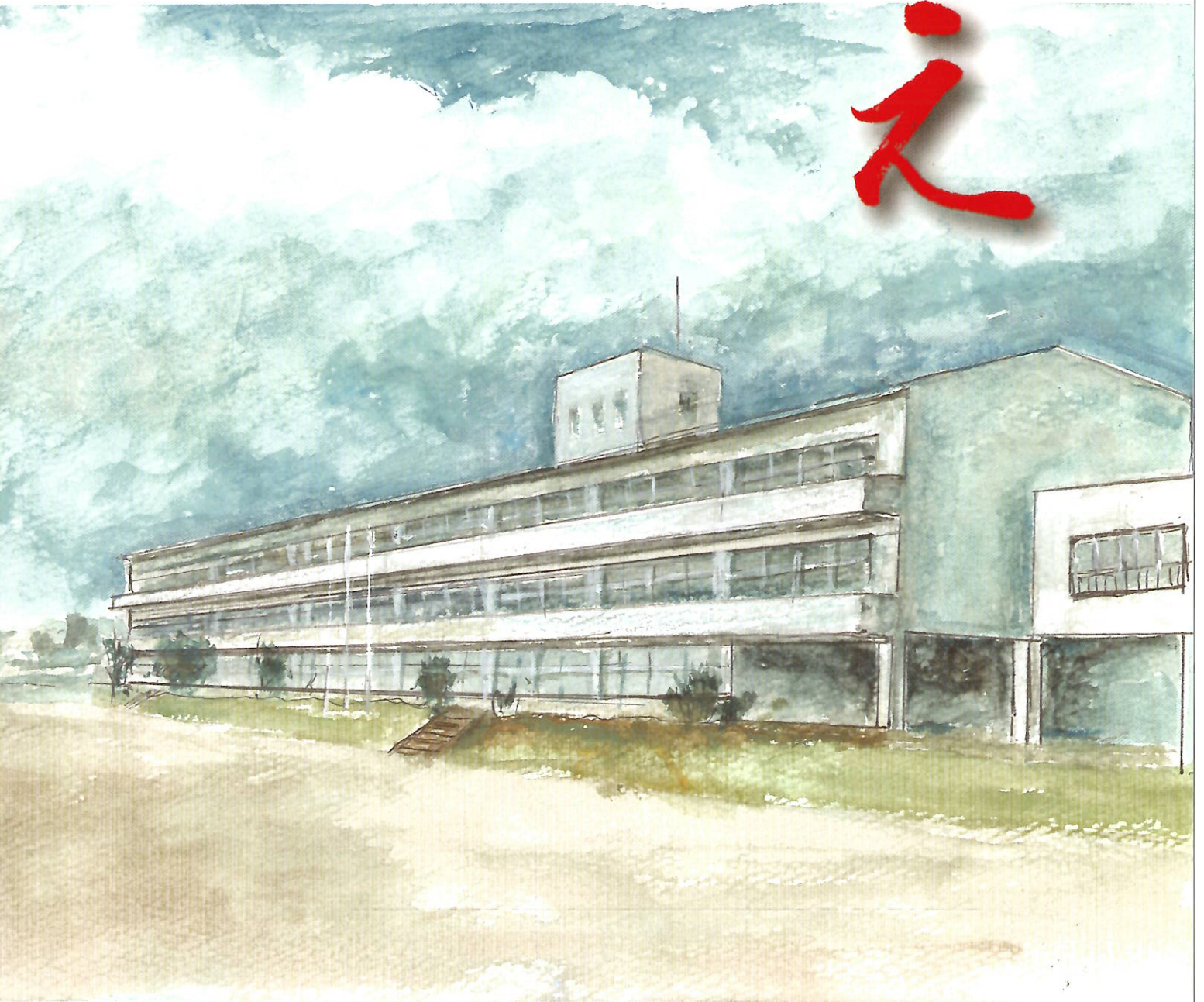


栄え

61年の栄光の足跡



龍ヶ崎市立

城南中学校

題字揮毫に寄せて

丹 文男

七月下旬に古島校長先生から直々に揮毫依頼のお電話をいただいたときは、驚きとともに深い感慨を覚えました。とても光栄に思い、喜んでお受けいたしました。しかし、しばらくの間、筆をとる気持ちが起きてきませんでした。城南中学校が閉校するというに現実味が湧かなかったのです。

十月下旬になり、そろそろだという思いに押されて筆をとりましたが、どうしたことか力みばかりが出てしまい、線も形も整いません。日を変えて何度か書いてみましたが、心に落ちる字が書けないでいました。

十月の最終日のことです。書棚から城ノ内中分離記念誌「絆」を手に取りました。愚生が在職時に生徒会の諸君と共に作り上げた思い出深い一冊です。ページをめくると、初代瀧澤不二男校長先生直筆の「城南の歌」が目飛び込んできました。よどみのない筆致で、爽やかさと温かさ、そして力強さを感じる素晴らしい書です。最終行の「栄え祈りて」を見た瞬間、ああ、この字だ、と思いました。この味わいをいただいて書こうと、改めて筆をとりました。五十枚ほど書いたでしょうか。その中に、これだという一枚がありました。ほっと安堵の息がもれました。

書き上がった「栄え」を眺めていると、その中から「永久」の文字が浮かび上がってきました。心に熱いものを感じました。

61年の幕は閉じようとも城南魂は新しい中学校に引き継がれ、龍ヶ崎の未来を切り拓いていくことでしょう。

関係の皆様のご清祥とますますのご発展を願ってやみません。

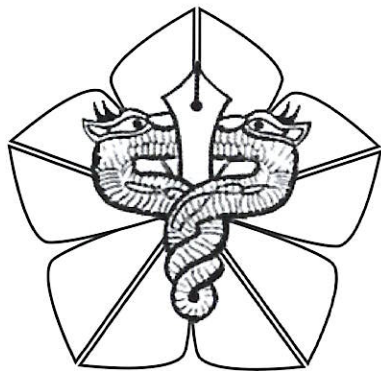
六十一の春秋を経て城南の栄えは永久語り継がれん



校旗



校章



「桔梗の紋」に「ペンを支える双龍の中」の字
山田公望先生作（昭和37年）



校章の由来

校章の外わくは桔梗の花びらをかたどっている。桔梗は、かつて龍ヶ崎城主、土岐氏の紋章であり、龍ヶ崎市の市花である。中央の『中』のデザインは「ペンを支える双龍」と呼ばれ旧制龍ヶ崎中学校（現在の竜ヶ崎一高）から昭和22年開校の龍ヶ崎中学校へ引き継がれた校章を継承している。

心豊かに逞しい人間の育成と一人一人の限りない飛躍を象徴したものである。



校訓



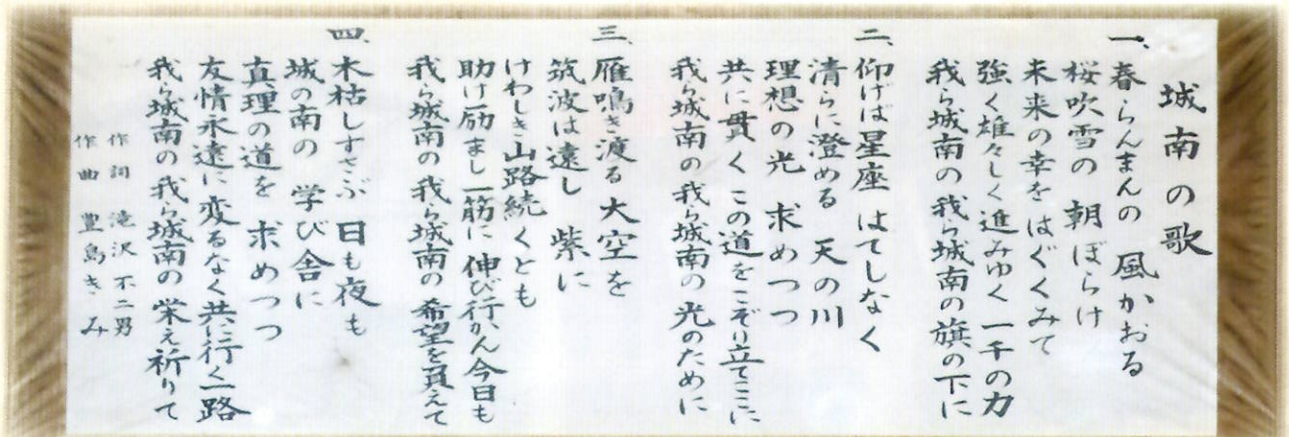
校歌誕生について



校歌は昭和 36 年の秋頃から、私が想を練り始めた。原案はいろいろな人に見せて批評を乞うたが、まとまるまでには 3 ヶ月程を要した。作曲は大宮教場の豊島先生にたのみ、同窓の山内博君の専門的な作曲の修正を経て、昭和 37 年 1 月 1 日に元旦祝賀に来た生徒たちに印刷して渡した。

その後、部分的な手直しをして決意し、昭和 37 年 3 月、青年研修所において挙行了した第 1 回卒業式で声高らかに歌われた時、ご臨席の荒井源太郎市長さんがハンカチで目頭を押さえてうつむいておられた姿が今でも忘れられない。

瀧澤不二男先生「城南回顧録」より



校歌「城南の歌」

一 春らんまんの風かおる
桜吹雪の朝ぼらけ
未来の幸をはぐくみて
強く雄々しく進みゆく
一千の力
我ら城南の我ら城南の
旗のもとに



二 仰げば星座はてしなく
清らに澄める天の川
理想の光求めつつ
共に貫くこの道を
こぞり立てここに
我ら城南の我ら城南の
光のために



三 雁鳴き渡る大空を
筑波は遠し紫に
けわしき山路続くとも
助け励まし一筋に
伸び行かん今日も
我ら城南の我ら城南の
希望を負いて

四 木枯らしすさぶ日も夜も
城の南の学び舎に
真理の道を求めつつ
友情永遠に変わるなく
共に行く一路
我ら城南の我ら城南の
栄え祈りて



城南の歌

作詞 瀧澤不二男 先生
作曲 豊島 きみ 先生

mf

 は る ら ん ま ー ん の か ぜ か お ー る

さ く ら ふ ぶ き の あ さ ぼ ら ー け

f

 み ら い の さ ち を は ぐ く み ー て

ff

 つ よ ー く お お し く す す み ゆ く い っ

mf

 せ ん の ち か ら わ れ ら じ ェ う な ん の

わ れ ら じ ェ う な ん の は ー た の も と ー に